

神奈川ウォーキング参加日22-⑩

雪の吉野梅郷

・ 決行可否判断

3月8日(火)山口から帰り、天気予報は9日雨又は雪情報。9日(火)吉越さん、平嶋さん、永井さんに計画メモを添付して、メールを入れる。10日、天気は晴れに向かうが、前日の積雪が心配。横浜や東京と違い雪が多いと思われる。歩行に差し支えない程度なら、雪に咲く梅も良いのでは・・・との一言もいれて。

パソコンで青梅線運行情報を調べると、「御岳駅付近で積雪倒木の為、青梅～奥多摩間は運行見合わせ」の情報。22時半頃吉越さんから電話あり。今日はスタッフ会議で帰宅遅くなり、今私のメール見て、明日の決行可否相談。我々の目指す「宮ノ平」駅をパソコン地図で確認、青梅駅の次駅で、最悪1駅分歩けば行けると判断。この時間帯、お休みになっている方もおられ、中止の場合電話連絡しかないので、最終的に吉越さんの判断で、2人だけでも行く事に決定しました。

・日時：平成22年3月10日(水) 青梅に9時半前に到着、ホーム内ではメンバーと会わず。改札口で地元永井会長さんが出迎えておられ、一安心。浜崎さん、石川さん御夫妻、田村さんとメンバー増えると共に永井さんの「吉野梅郷行きバス有り」との情報に、今日のウォーキング決行の先行きに明かりが見えた。その内メンバーが続々増え、最終的に15人となり責任重大、気合を入れるも、地元永井さんの案内にお任せし、雪道を考慮して予定コースの後半を大幅に変更しました。

・コース：青梅駅10:00→吉野梅郷行きバスに乗り(明白院カット)、稲荷神社前で降り、神社でミーティング→吉野梅郷東口→正面出口近くで少し早目の昼食→岩割り梅→大聖寺(親木の梅)→即清寺→吉川英治記念館→永井邸<雪道で御岳遊歩道は歩行無理との判断で、吉川英治記念館見学終了時点で、皆さんに諮り、小澤酒造見学を含めた後半を取り止め決定。>



・ 概要と所感

稲荷神社からの歩道の雪道歩行に苦勞するも、民家の庭に入り雪に咲く梅の花を見てから、感嘆の声上がり、写真パチパチ。



民家の梅、庭をフリーパス

・・・皆さん積雪歩行対策十分でした

・梅の公園東門：通常無料が「梅まつり」開催中は200円、団体シルバー料金なし。雪で折れた梅で昨夜の積雪度合いを思い知らされる。白い雪に映える鮮やかな紅梅を見ながら坂を上り、公園が一望できる所まで来ると、最早や説明不要。写真をご覧ください。東口→あずまや③→しだれ梅の滝→あずまや①→売店→日本庭園（昼食）

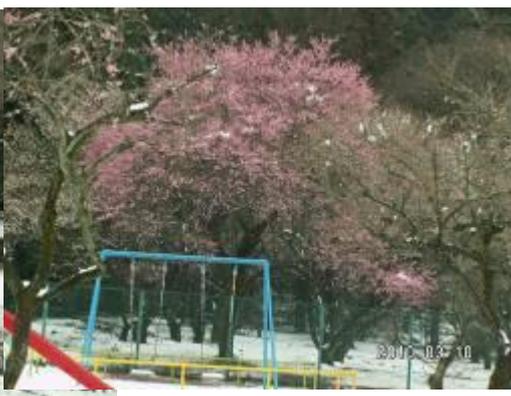


・梅の公園を11:40までとしていたが、もうそろそろお日様がお顔を御見せになる頃ではと、誰かが言うと永井会長「お日様も御昼休みしているのでしょうか」のオチに「座布団3枚」の声あり。寒くはないが、お日様のない所で昼食は気が進まず。最初一番眺めの良い「あずまや①」を狙っていたが、タッチの差で別のグループに押えられて残念。正面出口の受付で「日本庭園」内の屋根付きベンチで昼食許可を得る。梅を眺めながらの最高の場所。12:20まで。このベンチに写真集あり。今日参加の浜崎さん「優秀賞」の写真見付ける。旦那さんの作品も有り。昨年撮影会に参加されたとのこと。



吉野梅郷の近くには、かつて秩父と鎌倉を結んだ「旧鎌倉街道」があり、この鎌倉街道沿いにひととき大きな梅の木があり、その枝ぶりはそれは見事なものであつたと伝えられております。「春」には真っ白な花を咲かせ、「夏」には青い実をたわわに実らせ、「秋」には晩秋まで紅葉が美しく、「冬」には積もつた雪によりまるで満開の頃の花を思わせ、一年を通して人々の目を惹きつけていたとのこと。この街道を往來する人々に親しまれ、また憩の場として地元の人々から愛され、いつの頃からか「鎌倉の梅」と呼ばれるようになった。昭和五〇年代前半に台風の被害を受けましたが、この場所に移植され、現在、樹齢四〇〇年以上と言われております。

「鎌倉の梅」の由来



・「天澤院」の高台から「梅の公園」をみて、「鎌倉の梅」で学習、「中道梅園」「下山八幡神社」を経て岩割の

梅へ向かう。

・雪割の梅 (悲恋の梅)・・・悲しい恋を物語る・・・若き昔の思い出を胸に眺める・・・

岩割の梅 (別名 悲恋の梅)
 この梅はその昔、若武者がこの地の娘との恋の逢瀬の場所、若武者が出陣のとき、突き刺した枝の一枝がこの岩を割り、すくすくと伸びたのでこの名が付けられたと言われています。



・大聖院 (親木の梅)

親木の梅
 この梅は、青梅の名の由来となった金剛寺にある岩門誓いの梅の分かれて古野梅窓の梅の親木(元祖)と言われています。現在は割木した樹齢七百年の初代から根分けした二代目です。



← **コトウジ 紅冬至** (開花は冬至頃で花付きは極めて良い為正月の盆栽向きで、樹勢は強い。)



この後・即清寺・吉川英治記念館・愛宕神社と行きましたが、私のカメラ電池切れで写真なしです。

多摩川を渡り、二俣尾駅前飲み物を買って、駅の陸橋を越えて永井邸へ行く。14:30

途中永井さんの幼馴染の駅員さんに、青梅線の回復状況を聴く。もうしばらくで、回復との事で、先ずは安心。

・即清寺



(昨年3月10日撮影
したものです)

招春の梅あり

・永井邸

昨年もウォーキングの後訪れて、顔なじみの人も多いようですが私は初めての訪問でした。今年1月9日、柴又七福神ウォーキングで参加されたお嬢さんと、奥様の手料理で温かく迎えられ、15人全員が御邪魔しました。新旧趣向を凝らした部屋取りと建物に感服しました。雪で曲がった青竹の見える、床暖房の効いた永井会長の個室で、美味しく楽しくアフターウォークさせて戴きました。ご自宅前の広い梅庭園の梅で仕込まれた「梅酒」は大好評でした。奥様も参加されたベトナム旅行や、今日撮れたての写真も見ながらの親睦会でした。

回復した二俣尾駅発16:41分の電車で帰途へ。

・終りに

或るアフターウォークで、「青梅吉野梅郷」と「小澤酒造、銘酒澤乃井」の話を漏らした拍子で、素人がリーダーにたてまつりあげられ、企画しましたが、地元永井会長と吉越局長のアドバイスを戴き、なかなか味わうことの出来ない「雪の観梅行軍」も無事終わることが出来ました。永井会長さんには深く感謝とお礼を申し上げます。最終決定判断をして戴いた吉越リーダー、そして積雪と悪交通事情の中、15人もの参加を賜りました皆さん有難うございました。雪に咲く梅もさることながら、人出も少なくかえって、ゆったり観賞出来ました。

・参考

吉野梅郷は昨年日本経済新聞2009年2月14日号「おすすめの梅の名所ランキング」で全国の名所90ヶ所の中から第1位を獲得。吉野梅郷は日向和田駅から二俣尾駅までの東西4kmの地域で、個人梅園を含め25,000本の梅あり。「梅まつり」2月20日から3月31日まで行われる。青梅市営「梅の公園」は120種、1,500本の梅が傾斜面にあり眺めが良い。

梅の分類と特徴。花の色は、白・淡紅・紅・濃紅・変わりとあり、花弁は一重・八重・変わりと多種。熊坂さんに私の準備した「梅図鑑」67種の中から、今日の名札にあった花に印を付けて戴きました。

「小向」^{こむかい}「月影」^{げいげい}「紅冬至」^{こうとうじ}「新平家」^{しんぺいけ}「八重旭」^{やえあす}「紅枝垂れ」^{こうえだり}「八重寒紅」^{やえかんこう}

・吉川英治記念館：吉川英治（1892～1962）横浜生まれ。4歳の時父の会社傾き、以降奉公、住み込み店員苦学。15歳年齢偽り横浜ドック船工員、17歳時重傷負う。上京シラセン釘工員の傍ら句会で川上三太郎らを知り、「大正句会」同人になる。29歳東京毎夕新聞社入社。ここも翌年大正12年関東大震災で、社屋焼け解散となる。30歳で文学に専心決意するまでは苦勞の連続。31歳講談社の雑誌に、次々と作品発表し、ようやく原稿生活の自信を得る。高円寺に借家し、赤沢やすと同棲するも、家事かえりみず内事複雑。12年後43歳で離婚し、池戸文子と結婚。昭和19年東京赤坂から吉野村（現青梅市）に疎開、昭和28年8月品川に移るまでの9年間をここで居住し、「新平家物語」他を執筆。旧吉川邸は2000坪あり。現在の記念館は655㎡。昭和52年（1977）開館。



(昨年3月10日、撮影のものです)